

菊池川流域の古墳

The Tumuli of the Kikuchi River Watershed

高木恭二

TAKAKI Kyouji

はじめに

- ①肥後(熊本県)の地域区分
- ②関川(諏訪川)下流域の古墳
- ③菊池川下流域の古墳
- ④菊池川中流域の古墳
- ⑤菊池川流域古墳の特性
- ⑥菊池川流域古墳の様相

おわりに

【論文要旨】

現段階ではマロ塚古墳の場所を特定することは不可能であるが、筆者は少なくとも菊池川中流域付近で、その支流である合志川の左岸付近にこの古墳は存在したであろうと考えている。小論では、このマロ塚古墳を含む菊池川中流域の古墳や横穴墓等の変遷、首長墓の系譜、それに流域一帯の古墳文化の特性について整理を行った。

菊池川を含む肥後地域における主要古墳は13の地域に集中しており、そのうちの関川と菊池川下流域、それに菊池川中流域の三つの地域が肥後全体の中でも主要古墳の分布する地域として注目され、ここでとり上げることにした。詳細に見ていくと、この3地域は、関川流域ではその一群だけが一つの集中地帯であり、菊池川下流域は6地域に、中流域では11地域に細かく地域設定が可能である。以上の18の各小地域において個性的で特徴的な古墳が築造されており、出土遺物にも注目すべきものがある。

その中でもこの地域の古墳文化の特性を①石棺の系譜、②石屋形の系譜、③装飾古墳の分布、④首長墓の分布と地域的まとまり、⑤交通路、の5項目について検討を行い、特にその中でも交通路について詳細にふれた。

すなわち、交通路については(ア)埴輪が運ばれた道、(イ)須恵器が運ばれた道、(ウ)塩が運ばれた道、(エ)切石造り複室構造横穴式石室の伝播、(オ)想定されるいくつかの陸路、など5点にしぼって分析を試みたが、これによって、7世紀後半頃に築かれた鞠智城が交通の要衝としての存在意義がいっそう高まっていくことを示した。

菊池川流域の古墳を概観して気づくのは、朝鮮半島を中心とする外来系遺物が集成編年6期の段階において既に菊池川中流域にあたる合志川流域において流入しており、そのような状況の中から豊富な武器・武具をもつマロ塚古墳が現出したのであらうと見られる。

【キーワード】 マロ塚古墳、古墳分布、合志川、交通路、鞠智城